

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)

個人研究

2014年度研究成果報告書

研究代表者	所属部局・職	氏名
	文学部・准教授	佐藤 雄基 印
研究課題	「日中比較による日本中世古文書学の再構築 - 書札様文書を中心にして」	
研究期間	2014年度	
研究経費	(支出金額) 490000円 / (採択金額) 490000円	

研究の概要(200~300字で記入、図・グラフは使用しないこと)

日本中世史学・古文書学では伝統的に、モデルとして西欧が意識され、日欧比較の観点が重視されてきた。これに対して、中国をはじめとする東アジア諸国の古文書・史料との比較検討は、従来十分に行われてこなかった。このような史学史的反省を踏まえて、本研究では、日本における中国古文書学の研究状況を調査し、現在の日本中世文書論の成果とのすり合わせを行うとともに、各地域における古文書学・古文書研究の比較研究のための予備調査を行い、書札様文書(書状形式の文書)を中心として日本中世文書の特徴を明らかにすることを目的とした。

キーワード(研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

{ 古文書学 } { 書札様文書 } { 比較史 }

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究の成果は、中世文書成立論、比較古文書学、史学史の三つに分けることができる。

I、日本中世文書成立論

中国・朝鮮の文書様式とその影響を受けた日本古代文書に関する研究成果を踏まえ、日本中世文書の成立論を再検討する作業を進めた。

代表的な中世文書の一つである書札様文書のうち、奉書（主人の仰せを承って侍臣が発給する書状）の成立論に取り組み、上位者の仰せを書き記した書面である「宣旨」などの古代文書との関係を考察した。奉書の成立論に関しては、もう一つの代表的な中世文書である下文の成立とあわせて、古代文書から中世文書への展開過程を考察した。伝統的な古文書学は、律令に規定された公式様文書の変容過程として中世文書（公家様文書）の成立を論ずる傾向があったが、本研究では、公式様文書とは異なる「宣旨」を手掛かりに中世的な文書様式の成立を論じた点に特徴を有する。その成果は、「日本中世前期の文書様式とその機能」として論文化した。

II、比較古文書学

古文書学は西欧で確立した学問である。近代的学知としての歴史学が一九世紀以降、世界各地に広がるとともに、西欧由来の古文書学もまた各地の歴史研究に応用されたが、各地に残された文書史料の多様性に応じて様々な変容を遂げた。諸地域における古文書学の学史と現状を再確認する作業は、将来の比較史・比較古文書学に向けた基礎作業になると考え、古代ローマの影響を受けた中世西欧、中国の影響をうけた古代・中世日本、中国の文書様式

研究成果の概要 (つづき)

の影響を受け続けた朝鮮、中国と西アジアの双方にまたがるモンゴル帝国、それぞれの地域・時代を専門として古文書学的研究に取り組む若手研究者四人を報告者として、2014 年度立教大学史学会大会において「ユーラシア東西における古文書学の現在」というシンポジウムを開いた(古代・中世日本に関しては自身が報告者となった)。その成果は『史苑』75 巻 2 号における特集として公表した。

また、中国古文書学、西欧古文書学に関して文献や論文を収集して整理作業を進めているところである。

Ⅲ、日本古文書学の成立に関する史学史

西欧由来の古文書学というシェーマを相対化するため、明治期における古文書学の成立過程の再検討に取り組んだ。特に西欧学知の導入される以前の前近代以来の文書調査の実践に注目した。その成果の一端は、史学会第 112 回大会・日本史 近現代史部会 シンポジウム「近代日本のヒストリオグラフィ」において「明治期の史料採訪・編纂と古文書学」として発表し、2015 年度中にシンポジウム論文集の収録論文として公表する予定である。

なお史学史の観点から日本古文書学を再検討する作業については、研究分担者として参加している立教大学 SFR の共同研究「グローバルヒストリーのなかの近代歴史学」と連動して、近代的学知の学史の一環として行っている。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ① 雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ② 図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③ シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④ その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)

[雑誌論文] (計 3 件)

佐藤雄基「書評 富田正弘著『中世公家政治文書論』、『日本史研究』621号、2014年、53-60頁

佐藤雄基「起請文と誓約 - 社会史と史料論に関する覚書、『歴史評論』779号、2015年、32-45頁

佐藤雄基「日本中世前期の文書様式とその機能 - 下文・奉書の成立を中心にして、『史苑』75巻2号、2015年、203-230頁

② 図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)

[共著] (計 1 件)

山岡道男・増井由紀美・五十嵐卓・山内晴子・佐藤雄基『朝河貫一資料 早稲田大学・福島県立図書館・イエール大学他所蔵』(研究資料シリーズ No. 5)、早稲田大学アジア太平洋研究センター、2015年、総 394 頁

[分担執筆] (計 1 件)

佐藤雄基「大江広元と三善康信(善信) - 京・鎌倉をむすぶ文士のつながり」、平雅行編『中世の人物 京・鎌倉の時代編 第三巻 公武権力の変容と仏教界』、清文堂出版 2014年、249-267頁

③ シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)

特集「ユーラシア東西における古文書学の現在」(2014年度立教史学会大会)、2014年6月21日、於立教大学

④ その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

[学会発表] (計 4 件)

佐藤雄基「日本中世前期の文書様式とその機能」、2014年度立教史学会大会 特集「ユーラシア東西における古文書学の現在」 2014年6月21日、於立教大学

佐藤雄基「東アジア的視点による鎌倉幕府裁判の再検討」、第14回ヨーロッパ日本研究協会(EAJS)国際会議、2014年8月30日、於リュブリャナ大学(スロヴェニア)

佐藤雄基「明治期の史料探訪・編纂と古文書学」、史学会第112回大会・日本史 近現代史部会 シンポジウム「近代日本のヒストリオグラフィー」、2014年11月9日、於東京大学

佐藤雄基「鎌倉期の「地下」について」、鎌倉遺文研究会第207回例会、2015年2月5日、於早稲田大学